

五彩

第三号 新風

- 第四十六代生徒会
生徒会長 西敷健
- 高校副会長 林田尚毅
- 高校書記 岡本佳奈
- 中学副会長 上田実穂
- 中学書記 南本紗都莉

新型コロナウイルス感染症拡大によって外出自粛を余儀なくされる休日が増えています。有意義な時間を過ごせているでしょうか。

私は、交通問題研究部の校外向けPR動画をよく作っているのですが、最近では自分の動画編集の技術に磨きをかけています。

コロナで様々なイベントなどが規制される中、動画はとても重要視されています。たとえば、交通問題研究部の宣伝をする機会をコロナで失ってしまったとき、動画で配信すればその機会を補うことができます。

その際、動画の進行スピードに注意して動画編集をしています。

私と同じ世代の若い人をターゲットにした動画を作るときは、動画の展開を早くすると、退屈せずに視聴し、最後まで観てくれる人が多いです。しかし、もし私の親の世代や高齢の方がこの動画を観ると、早すぎて何も情報が伝えられませんか。そのような視聴者をターゲットにする動画を作るときは、動画の展開を遅くし、大きい字幕や情報の順序を整理して動画にします。

実際に動画を作るときは、年齢だけでなく、性別、住所などでもかなり変わってきます。より多くの人に観てもらえる動画が作れるように日々精進しています。

コロナが流行し、日々流動的に社

会情勢が変化しています。近い将来、意外なジャンルが大活躍する時代が来るかもしれません。この機会に、自分の技術力を磨くことをしても良いかもしれません。

(高校副会長 林田)

新入生インタビュー

新中学一年生、新高校一年生理数コースの皆さんが入学され、二ヶ月ほど経ちました。そこで入学式で新入生代表の言葉を述べられた新中学一年生の上田匠真君に入学後の感想を聞いてきました。

— ずいぶん遅くなりましたが、入学おめでとうございます。実際に入学してみてもどうですか？

「山」ですね。

— その通り、大正解です。(笑) 他に驚いたことはありますか？

先生のキャラが濃いことですね。

— 確かにそうですね。社会科の授業が先生の劇場と称されるのは、もはや伝統ですよ。他に新入生が驚きそうなことといえば、矢田山縦走かな？ 知っていますか？

えー。どんな感じですか？

— 「山を走る」以上です。面白そうではないやあ…。

— もうクラブには入りましたか？

小学四年生から習い事としてバスケットをやっていたので、バスケット部に入ろうと思っていたんですが、アーチェリー部も珍しいなあと思ひ、悩んだ結果、バスケット部に入りました。

— 頑張ってくださいね！ 委員会には入りましたか？

本を読むのが好きなので、図書委員会に入ろうと思ったんですけど、クラスのじゃんけんで負けちゃって、入れませんでした。

— 残念ですね。また機会もありますよ。できれば生徒会へも…。

考えときます。(笑)

— 次に文化祭について聞きたいのですが、文化祭に来たことはありますか？

小5くらいか来たことがあるんですけど、小学校とは違う雰囲気、とても楽しかったです。小学校ではなかった行事なので、どんな感じか楽しみにしています。

— 文化祭準備も始まっていますし、ぜひ文化祭を作り上げる生徒の一員として頑張ってくださいね。では最後にこれからの奈良学園生活についての意気込みをお願いします。

勉強を頑張りたいです。また小学校にはなかったクラブ活動も楽しみたいと思います。

— ありがとうございます。

生徒の皆さんへ

昨年の生徒大会で、生徒の意見や要望を生徒会活動に反映できるように新しく要望書を作るといったことを活動方針として挙げました。その後実際に要望書を作り、生徒の皆さんの意見や要望を聞く手段は目安箱と要望書の二つとなりましたが、やはり目安箱での投書が多いのが実情です。

もちろん投書が多いことは生徒会活動の支えとなっていますが、実際に生徒会が投書について検討しようとしても、投書が匿名のため、本人に

会うことができず、どうしても細かな点や根拠がはつきりしません。そのため、その意見について具体的に話し合おう、先生方にも相談しようという動きにはならず、生徒の意見を生徒会活動に反映する役割を持つ目安箱が形骸化しかけているのが現在の生徒会の問題です。

そこで今後は目安箱での対応から記名式である要望書での対応へと切り替えていくことを考えています。しかしながら目安箱をなくし、要望書のみにしてしまうと、匿名でなければ言いづらい意見を聞くことができなくなってしまうかもしれませんので、第四十六代生徒会の間は、要望書と目安箱の二つで生徒の皆さんの意見や要望に添えていく予定です。具体的には生徒会が検討すると決定した投書には、要望書で名乗り出てもらうよう返答し、要望書での要望の実現を目指します。ご理解とご協力をお願いします。

目安箱の返答方式

目安箱の投書への返答を揭示しています。もう確認した人もいるかもしれませんが、返答方式を新しくしたので、お知らせします。以前までは生徒会ポードに投書と返答が書かれた紙を掲示するといったものでしたが、生徒の皆さんから目安箱の投書内容について、本当に検討しているのかわからない、そして結局どうなったのかなどという意見や投書があったため、次のような複数回返答方式で今後は回答することになりました。

返答1 (共通)

返答2~ (検討する投書のみ)

| |
|------------------------------|
| 返答内容 (検討するかどうか) |
| 検討しない場合：理由 検討する場合：今後の対応内容 |

| |
|-----------------------------|
| 進行状況についてのお知らせ もしくは最終的な結論 |
|-----------------------------|

☆返答1では、投書内容に対して、生徒会が検討するかどうかをその理由とともに示します。そして検討することが決まった投書に対しては、何か進展があったとき、もしくは最終的な結論が出たときに、返答2を随時、返答1の隣に付け足して揭示していきます。ただし諸事情で返答できず、掲示が不可能なものがあることを了承ください。

☆生徒会ポードのスペースの問題で、検討しないと決まった投書や最終結論が出たものは、掲示してからしばらくする取り外すことがあるかもしれませんので、早めの確認をお願いします。

☆上段で説明したように要望書の利用を勧めるように返答することがあります。その場合、その投書をした人は要望書に必要事項を記入し、生徒会室まで持ってきてください。要望書の提出がなかった場合、その投書内容を実際に検討するかどうかは生徒会が判断します。基本的には検討をしない方針です。